

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	デザイントリアル	高沢亮	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

アドバタイジングの入り口として目的意識と技術の向上をめざし新しい可能性を探りだすことを目的とした授業。

【講義概要】

一つの企画立案から現地視察、スケッチ、造形制作、ポスター制作を通してデザインの仕組みを理解し物の見方を学習することを目的とする。さらに、三次元造形技術やそのデザインへの応用に関する表現できることを達成目標とする。

街の緑の空間に彫刻を配置し、芸術性豊かで人々が集まる公園作りの企画を提案。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	現地取材とスケッチ1
3	現地取材とスケッチ2
4	現地取材とスケッチ3
5	現地取材とスケッチ4
6	企画、アイデアのまとめ1
7	企画、アイデアのまとめ2
8	三次元造形の制作1
9	三次元造形の制作2
10	三次元造形の制作3
11	造形物の撮影
12	ポスター制作1
13	ポスター制作2
14	ポスター制作3
15	ポスター制作4
16	企画と造形物の発表/課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	写真画像を4種類のイラストにする。01
21	写真画像を4種類のイラストにする。02
22	写真画像を4種類のイラストにする。03
23	写真画像を4種類のイラストにする。04
24	写真画像を4種類のイラストにする。05
25	水の音をイラストへ1
26	水の音をイラストへ2
27	水の音をイラストへ3
28	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。01
29	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。02
30	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。03
31	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。04
32	イラスト作品をパソコンでまとめる。01
33	イラスト作品をパソコンでまとめる。02
34	イラスト作品をパソコンでまとめる。03
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員は、イラストレーターでありアナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。

個展、グループ展多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	Macオペレーション I	生島 則夫	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デザイナーとして必要な基本知識を早め実践しデータ作成を通して、最終的に基礎知識を習得し、のちに応用に展開できるようにするのが目的です。

【講義概要】

Adobe Illustrator の基本的な操作、図形の制作などを通してペンツール・文字入力などの基本ツールの使い方を学びます。
またAdobe Photoshopの基本的な操作、写真などのデータの補正・合成などを通しての基本ツールの使い方なども学びます。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	Ai文字ツール・ペンツール等のパスの説明等①(以降基礎で明記)
3	Ai基礎② Psデータ等の写真配置①
4	パスの練習①印刷とデジタルの物理的長さでデジタルデータの差の話①
5	Ai基礎③トリムマーク作成と印刷の説明①レイヤーの説明①配置②
6	Ai基礎④印刷説明②Ai・Psでの色の説明①配置③長さ②
7	トリムマーク②色について②長さ③見え方についての違い①
8	パスの合体や数値での移動など パスの練習②レイヤーの説明①
9	パス③レイヤー②マスクについて①
10	Psでのパス①色について③
11	色について④PSレイヤーマスク等①
12	PSレイヤー②色について⑤Aiパスでロゴ作成①
13	作成したロゴをプラスしてのリーフレット作成①
14	作成したロゴをプラスしてのリーフレット作成②
15	RGBとCMYKの違い
16	RGBとCMYKの違い
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	ピクセル等解像度の説明。
21	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。①
22	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。②
23	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。③
24	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。④
25	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。⑤
26	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。⑥
27	課題作成①
28	課題作成②
29	課題作成③
30	課題作成④
31	Ps・Ai今までの復習①
32	Ps・Ai今までの復習②
33	Ps・Ai今までの復習③
34	Ps・Ai今までの復習④
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員は、Adobe Illustrator・Adobe Photoshopなどを利用した仕事を展開している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	デッサン	高沢亮	144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デッサンを描くことを通して制作態度を改め、正しい認識の元に見えることの仕組みを理解し、物の見方を学習することを目的とする。さらに、基本的な用語の理解と形態の描法が表現できることを達成目標とする。

【講義概要】

美術描画制作全般の基礎的な技術となるデッサンを、実習を通して基礎から理解していく授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	デッサン概要説明 用具チェック 立方体
3	円柱(楕円の理解) 鉛筆デッサン
4	箱(方形の応用) 1
5	箱(方形の応用) 2
6	ブロック(組み合わせのパース)1
7	ブロック(組み合わせのパース)2
8	ブロック(組み合わせのパース)3
9	バケツ(楕円の応用)1
10	バケツ(楕円の応用)2
11	バケツ(楕円の応用)3
12	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)1
13	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)2
14	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)3
15	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)4
16	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)5
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	傘組み合わせ1
21	傘組み合わせ2
22	傘組み合わせ3
23	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン1
24	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン2
25	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン3
26	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン4
27	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作1
28	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作2
29	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作3
30	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作4
31	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作1
32	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作2
33	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作3
34	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作4
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員は、イラストレーターであり、アナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。個展、グループ展多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養科目	ビジネススキル I	山本 浩生	36時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
デザイナーとしてのみならず人間力・総合力を学び、将来にわたって継続的に活動・活躍できる人材を育成するのが目標・テーマである。			
【講義概要】			
グラフィックデザイン科全学生の基礎的な知識、教養、マナーなどを徹底して指導する。報告・連絡・相談などの社会人としての基礎的な技術を習得する時間である。			
回	授業計画及び学習内容		
1	前期オリエンテーション		
2	各人の自己紹介／講師作品の紹介		
3	整理整頓の技術・実践		
4	整理整頓の技術・実践		
5	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／一二年生の交流-1		
6	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1.／一二年生の交流-2		
7	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／発表		
8	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／実技		
9	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／講義		
10	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-1		
11	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-2		
12	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-3		
13	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-1		
14	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-2		
15	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-3		
16	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-4		
17	前期講評評価		
18	前期講評評価		
19	後期オリエンテーション		
20	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-1		
21	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-2		
22	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-3		
23	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-4		
24	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-5		
25	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-6		
26	デザイナーとしての視点と作法-1		
27	デザイナーとしての視点と作法-2		
28	デザイナーとしての視点と作法-3		
29	デザイナーとしての視点と作法-4		
30	デザイナーとしての視点と作法-5		
31	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-1		
32	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-2		
33	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-3		
34	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-4		
35	後期講評評価		
36	後期講評評価		
【成績評価方法】			
提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は、講義・実習・演習形式。担当教員は美術家、批評家であり、個展・グループ展・著書等多数。油彩・水彩・ペン・鉛筆・写真・映像など多岐にわたる素材を使用し、表現する。			

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ベーシックデザイン I	関翔吾	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デザインの世界観を拡張する授業を展開する。それにより、学生の技術・知識だけではなく独創性を身に付けさせる。
また、就職活動のためのポートフォリオの質を少しでも向上するような作品を制作できるように指導する。

アートディレクションやブランディングの観点からアピールできる作品作りを、1課題につき何週かに渡って制作する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	講師仕事事例紹介、ピンタレスト(SNS)発表
3	好きなデザインを考える(ラフ)
4	好きなデザインを考える(2回目)
5	好きなデザインを考える(3回目)
6	ポートフォリオ発表
7	オリジナリティを追求する(ラフ)
8	オリジナリティを追求する(2回目)
9	オリジナリティを追求する(3回目)
10	オリジナリティを追求する(4回目)
11	課外授業(美術館/ギャラリー等)
12	世の中を良くするデザイン(ラフ)
13	世の中を良くするデザイン(2回目)
14	世の中を良くするデザイン(3回目)
15	世の中を良くするデザイン(4回目)
16	世の中を良くするデザイン(5回目)
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はデザイン事務所を経て、現在フリーのグラフィックデザイナー/アートディレクターとして活躍している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・E
専門基礎科目	ベーシックデザインⅡ	田中彩里	54時

【授業の到達目標及びテーマ】

小型の製品のデザイン作成を通じて具体的に習得することにより、プロフェッショナルとしても通用グラフィックデザインの基礎力を身に付けさせることを目標とします。

【講義概要】

イラストレーターやフォトショップの技術やデザインの基本的な考え方を、具体的な作業を通じて指す。

回	授業計画及び学習内容
1	オリエンテーション
2	グラフィックデザインについて解説
3	ブックデザイン内容把握
4	タイトルのロゴ作成
5	イメージラフ作成1
6	イメージラフ作成2
7	プレゼンテーション
8	好きなアーティストのCDジャケット作成の課題提起 内容整理 アイデア出し
9	イメージラフ(手描き)作成
10	ロゴ作成-1
11	ロゴ作成-2
12	CDラフ作成
13	CDラフ作成
14	チラシラフ作成-1
15	チラシラフ作成-2
16	チラシラフ作成課題講評・締切。プレゼンテーション。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員は、美術大学卒業後主にパッケージデザインなどのデザイナーとして活動している。

対象

後期

時間数

時間

するような

導しま

長年にわ

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	マスメディア概論	長峯八州男	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

受け手側を考えた発信能力(情報共有化)を理解し身に付けさせることを目標にする。

【講義概要】

「お客様第一主義」とは何かを考えながらどのような媒体にどのような表現で「広告・PR」するのかを、基礎的技術との関連性を通して理解・履修・習得させるような授業を展開する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	相互紹介
3	広告の定義／広告の歴史
4	広告のプロセス①
5	広告のプロセス②
6	「新聞媒体」新聞広告の掲載位置による分類
7	「雑誌媒体」雑誌広告の特性。雑誌広告の種類
8	「電波媒体」テレビ、ラジオ
9	その他の媒体の特性①
10	その他の媒体の特性②
11	広告の目的分類
12	広告の内容表現
13	広告の内容形態
14	広告会社／広告・表現の規制・法規
15	インターネットの普及
16	課題レポート講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講座・実習形式。担当教員は、元新聞社勤務。長年マスメディアの現場にて活躍している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	広告論	長峯八州男	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

広告・PR論を通して受け手側を考えた発信能力(情報共有化)を理解し身に付けさせることを目標にする。

【講義概要】

PRと広報の最新動向、海外広報での注意すべきことなどを学習し、PRと広報を理解習得させるような授業を展開する。

回	授業計画及び学習内容
1	オリエンテーション
2	PR広報論
3	グリコ・森永事件にみる相違
4	PRとは「水俣公害訴訟」にみる行政と企業への情報開示
5	PRの歴史:近代的PRの出発
6	広報対象(社外PR)
7	広報対象(社内PR)
8	メディアと広報、マスコミと媒体
9	パブリシティ
10	緊急対応
11	苦情対応
12	CI、CCとは。IRとは。
13	著作権の基礎知識
14	海外広報
15	PR代理店活用1
16	PR代理店活用2
17	課題レポート講評評価
18	課題レポート講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、講座形式。担当教員は、元大手新聞社勤務。長年マスメディアの現場にて活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	色彩表現	出口 寛子	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

理論的な色彩構成を学ぶことにより、最終的に「色彩検定 3級」程度の知識・技術を身につけることを目標にする。

【講義概要】

講義全般にわたって、色の三属性の基本的な技術・知識を身に付けさせる。
また、作品への愛着を持ち、丁寧な創作ができるよう指導する。
最終的に就職活動時に参考資料として持参できるような作品となるよう指導する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	フィールドワーク:身近にある色を探してみよう:最低12色相(P25 図4)探す
3	集めた色で色相環を作ってみよう(明度・彩度のバラツキを体感する)
4	演習:絵具を使って色の三属性を理解しよう (p28図9を作る)
5	絵具(白・黒・赤)、絵筆、スポイト(絵具を同量に図れるものなら何でもよい)
6	PCCSのTONE表を作ってみよう(必ずトーンごとに作成すること)
7	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-1
8	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-2
9	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-3
10	グラデーション構成-1
11	グラデーション構成-2
12	グラデーション構成-3
13	模写1
14	模写2
15	模写3
16	模写課題講評・締切。色彩検定3級対策
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員は大手鉄道会社の航空営業部に12年勤務。
代理店セールスの傍ら社員添乗、ツアー企画などの経験のなかで、フライヤー制作などの経験がある。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	平面構成	渡邊 伸綱	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

生徒各自の自主性・発想力・創造力・アイデアを大切に考えます。またそれを具体的に表現できるグラフィックデザイナー、クリエイターを育てることを目的とします。
また、各学生作品が、新鮮な新しい時代を感じ取れるものになることも目的とします。

【講義概要】

学生各自が自ら課題を設定し制作することを基本とします。
教員は各学生に向き合い寄り添いつつ柔軟かつ臨機応変に、課題制作の指導を行います。
後期中頃には、動画を用いた平面構成デザイン制作の指導を行います。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	自由課題制作-1
3	自由課題制作-2
4	自由課題制作-3
5	自由課題制作-4
6	自由課題制作-5
7	自由課題制作-6
8	自由課題制作-7
9	自由課題制作-8
10	自由課題制作-9
11	自由課題制作-10
12	自由課題制作-11
13	自由課題制作-12
14	自由課題制作-13
15	自由課題制作-14
16	自由課題制作講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	乗り物のラッピングデザイン制作-1
21	乗り物のラッピングデザイン制作-2
22	乗り物のラッピングデザイン制作-3
23	乗り物のラッピングデザイン制作-4
24	乗り物のラッピングデザイン制作-5
25	乗り物のラッピングデザイン制作-6
26	動画による平面構成デザイン制作-1
27	動画による平面構成デザイン制作-2
28	動画による平面構成デザイン制作-3
29	動画による平面構成デザイン制作-4
30	動画による平面構成デザイン制作-5
31	動画による平面構成デザイン制作-6
32	動画による平面構成デザイン制作-7
33	動画による平面構成デザイン制作-8
34	動画による平面構成デザイン制作-9
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員は、イラストレーター、画家。様々な画風を駆使し媒体を描き分ける。展示等多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	立体構成	山本 浩生	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

グラフィックデザイン科、Webデザイン科、CG科の三科合同授業であり、三科の学生がコラボレーションすることにより幅広い視野や知識・技術を獲得することを目標・テーマとする。

【講義概要】

講義全般にわたりグループワークの基礎、または発想力、主体性、協調性、積極性などを身に付ける。グループ内で即興で課題を出し合い、また課題を制作し学生同士の作品を批評しあうことで、批評的視点や幅広く柔軟な態度を身に付けさせる。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	「映画をつくろう」グループ分け、役員決定、企画構想会議等
3	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-1
4	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-2
5	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-3
6	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-4
7	企画構想の具体化、エスキースなどの制作
8	「映画をつくろう」発表、プレゼンテーション
9	8週目の講評会。評価付け。
10	「課題を出し合おう」
11	10週目の講評会。評価付け。
12	「課題を出し合おう」
13	12週目の講評会。評価付け。
14	「課題を出し合おう」
15	14週目の講評会。評価付け。
16	課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	描画の基礎を知ろう-1
21	描画の基礎を知ろう-2
22	描画の基礎を知ろう-3
23	「アルバムを作ろう」-1
24	「アルバムを作ろう」-2
25	「アルバムを作ろう」-3
26	「アルバムの感想を語ろう」-1
27	「美術館に行こう」-1
28	「美術館に行こう」-2
29	「コラージュしよう」-1
30	「コラージュしよう」-2
31	「コラージュの感想を語ろう」
32	「批評をしよう」-1
33	「批評をしよう」-2
34	「表現を語ろう」
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講義・実習・演習形式。教員は美術家、批評家であり、個展・グループ展・著書等多数。油彩・水彩・ペン・鉛筆・写真・映像など多岐にわたる素材を使用し、表現する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ポートフォリオ制作1	加藤 淳	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

自分の代表的なデザイン作品をまとめたファイルの制作する。また実践力を養うことを目的とする。

【講義概要】

講二 年次「ポートフォリオ」の授業に繋がる基礎を学ぶ。

講義全般にわたり編集デザインの視点から、コミュニケーション力のある、精緻なポートフォリオの制作を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	後期オリエンテーション
2	ポートフォリオの基本1
3	作品づくりの基本2
4	事例の紹介1
5	事例の紹介2
6	現在、手元にある作品での構成案1
7	現在、手元にある作品での構成案2
8	現在、手元にある作品での構成案3
9	現在、手元にある作品での構成案4
10	現在、手元にある作品での構成案5
11	現在、手元にある作品での構成案6
12	必要な作品の追加、拡充1
13	必要な作品の追加、拡充2
14	必要な作品の追加、拡充3
15	必要な作品の追加、拡充4
16	必要な作品の追加、拡充5
17	後期講評評価
18	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式。担当教員1は、エディトリアルデザイナーである。

担当教員は、某有名缶コーヒーや某有名ビールのロゴ製作など、日本を代表するグラフィックデザイナーである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	エディトリアルデザイン1	中村 浩美	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

他の授業で身につけたグラフィック系ソフトを駆使して、組版ソフトに取り込む作業をとおしてDTPによる印刷物制作の理解を深め、最終的にエディトリアルデザイナーとしての基礎を習得することを目標とする。

【講義概要】

組版ソフトの基礎知識、さらにデータ出力(データ入稿)の基礎知識を学び、一連のエディトリアルワークの流れを理解する。

回	授業計画及び学習内容
1	後期オリエンテーション
2	組版ソフトの基礎知識1
3	組版ソフトの基礎知識2
4	組版ソフトの基礎知識3
5	組版ソフトの基礎知識4
6	組版ソフトの基礎知識5
7	組版ソフトの基礎知識6
8	組版ソフトの基礎知識7
9	データ出力(データ入稿)の基礎知識1
10	データ出力(データ入稿)の基礎知識2
11	データ出力(データ入稿)の基礎知識3
12	データ出力(データ入稿)の基礎知識4
13	基礎課題制作1
14	基礎課題制作2
15	基礎課題制作3
16	基礎課題制作4
17	後期講評評価
18	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はエディトリアルデザイナーとして活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	Macオペレーション2	高沢亮	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

学生が、デザイナーとして基礎から応用まで自在にイメージを表現できるまでの基本を身につけることを目標とする。

【講義概要】

Mac/DTPオペレーション(Photoshop での画像処理)の基本操作から始まり、後期のアドバタイジングに繋がるようなフライヤー制作をする。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	photoshopテクニック 1 顔や肌のテカりを抑え肌の赤みをとる方法。
3	photoshopテクニック 2 違和感なくほくろやシミ、しわ取りを消す方法
4	photoshopテクニック 3 顔の輪郭を修正する/顔を明るく立体的な印象を付ける方法。
5	photoshopテクニック 4 肌をなめらかでキレイに仕上げるとっておきの方法。
6	photoshopテクニック 5 ポップアートイラストを作る
7	photoshopテクニック 5 ポップアートイラストを作る 応用 子供服の促進用ポストカード制作
8	photoshopテクニック 6 セピア調に変える。
9	photoshopテクニック 7 セピア調に変える。応用 JR東日本フライヤー制作 1
10	photoshopテクニック 7 セピア調に変える。応用 JR東日本フライヤー制作 2
11	photoshopテクニック 7 セピア調に変える。応用 JR東日本フライヤー制作 3
12	photoshopテクニック 8 鉛筆画のような加工を作る
13	photoshopテクニック 9 鉛筆画の応用 ブライダルファッションショー用フライヤー制作 1
14	photoshopテクニック 9 鉛筆画の応用 ブライダルファッションショー用フライヤー制作 2
15	photoshopテクニック 9 鉛筆画の応用 ブライダルファッションショー用フライヤー制作 3
16	photoshopテクニック 9 鉛筆画の応用 ブライダルファッションショー用フライヤー制作 4
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員はイラストレーターであり、アナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。個展、グループ展多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	アドバタイジング	高沢亮	54時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>実在する企業広告を、扱い実際に制作する事で形の理解から表現できるまでの基本を身につけることを目標とする。 コンセプトとの関連に寄ってトータルの見方を習得できることを目標とする。</p>			
【講義概要】			
<p>Macオペレーション2での習得した技術を生かし、実戦をシミュレーションした広告作りを目指した作品を制作する。 イメージしたコンセプトを思い通りの表現ができることを達成目標とする。</p>			
回	授業計画及び学習内容		
1	前期オリエンテーション		
2	南アルプス国立公園環境広告制作 1		
3	南アルプス国立公園環境広告制作 2		
4	南アルプス国立公園環境広告制作 3		
5	腕時計広告制作 1		
6	腕時計広告制作 2		
7	腕時計広告制作 3		
8	カメラ雑誌広告制作 1		
9	カメラ雑誌広告制作 2		
10	カメラ雑誌広告制作 3		
11	カメラ雑誌広告制作 4		
12	酒類の雑誌広告制作 1		
13	酒類の雑誌広告制作 2		
14	酒類の雑誌広告制作 3		
15	酒類の雑誌広告制作 4		
16	酒類の雑誌広告制作 5		
17	前期講評評価		
18	前期講評評価		
【成績評価方法】			
<p>提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。 提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。 ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は、実習形式。担当教員はイラストレーターであり、アナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。個展、グループ展多数。</p>			

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時
専門応用科目	エディトリアルデザイン2	中村 浩美	108分

【授業の到達目標及びテーマ】

他の授業で身につけたグラフィック系ソフトを駆使して、組版ソフトに取り込む作業をととしてDTP印刷制作の理解を深め、最終的にエディトリアルデザイナーとしての基礎を習得することを目標とする。

【講義概要】

エディトリアルデザイン1で学んだ組版ソフトの基礎知識、さらにデータ出力(データ入稿)の基礎及び、一連のエディトリアルワークの流れを理解する。

DTPによる印刷制作の一般的ワークフローをととして、冊子制作を実践し、DTPソフト(InDesign)のオペレーションがスムーズに行えることを達成目的とする。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	今年度のスケジュール確認 課題制作①-1-1 タブ設定
3	課題制作①-1-2 タブ設定
4	課題制作①-2-1 表組み設定
5	課題制作①-2-2 表組み設定
6	課題制作①-2-3 表組み設定
7	課題制作②-1-1 雑誌(A4変型)横組み(基本)
8	課題制作②-1-2 雑誌(A4変型)横組み(基本)
9	課題制作②-2-1 雑誌(A4変型)横組み(応用)
10	課題制作②-2-2 雑誌(A4変型)横組み(応用)
11	課題制作③-1雑誌表紙+誌面制作
12	課題制作③-2雑誌表紙+誌面制作
13	課題制作③-3雑誌表紙+誌面制作
14	課題制作③-4雑誌表紙+誌面制作
15	課題制作③-5雑誌表紙+誌面制作
16	課題制作③-6雑誌表紙+誌面制作
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	課題制作④-1新聞(タブロイド判)
21	課題制作④-2新聞(タブロイド判)
22	課題制作④-3新聞(タブロイド判)
23	課題制作⑤-冊子制作/編集会議(役割分担と進行管理の確認)
24	各自担当ページ制作1
25	各自担当ページ制作2
26	各自担当ページ制作3
27	各自担当ページ制作4
28	各自担当ページ制作5
29	各自担当ページ制作6
30	各自担当ページ制作7
31	各自担当ページ制作8
32	各自担当ページ制作9
33	各自担当ページ制作10
34	各自担当ページ印刷製本
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はエディトリアルデザイナーとして活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年.通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	コマーシャルフォト	久米 喬／中川隆司	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

写真の基礎理論・技術を学び一定水準の写真撮影が出来るようになることを目的とする。さらに、習得した撮影技術を生かし、広告写真の中に商品のイメージを的確にビジュアルイズすることを達成目標とする。

【講義概要】

コマーシャルフォトで学ぶ技術や知識は、グラフィックデザイン科及び他の学科のいずれの授業科目とも関連する基本的なものである。他の授業で制作した作品の撮影など様々な提携授業が考えられる。各主要な項目ごとに課題撮影を行い学んだ内容の理解度及び表現力を確認する。クライアントが広告を出す意味を理解し、その意図に沿った写真を撮影する基礎的な技術を学ぶ。広告を構成するコピーライティングも学習する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	写真の起源 簡単写真史 デジタル一眼カメラの基本操作1
3	写真の起源 簡単写真史 デジタル一眼カメラの基本操作2
4	ピントロック、露出(シャッター速度と絞りの関係)について1
5	ピントロック、露出(シャッター速度と絞りの関係)について2
6	レンズの種類・効果。風景一般撮影(構図、フレミング、遠近感)1
7	レンズの種類・効果。風景一般撮影(構図、フレミング、遠近感)2
8	モノクロ撮影・現像1
9	モノクロ撮影・現像2
10	モノクロ引き伸ばし、各種複写1
11	モノクロ引き伸ばし、各種複写2
12	人物撮影(ライティングで変わる表情)1
13	人物撮影(ライティングで変わる表情)2
14	色温度(ホワイトバランス).実験撮影(デジタル)1
15	色温度(ホワイトバランス).実験撮影(デジタル)2
16	課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	ストロボの種類とその効果。実験撮影1
21	ストロボの種類とその効果。実験撮影2
22	ストロボの種類とその効果。実験撮影3
23	物体の質感表現 粗面立体 レリーフのライティング1
24	物体の質感表現 粗面立体 レリーフのライティング2
25	物体の質感表現 透明物体(ガラス器)のライティング1
26	物体の質感表現 透明物体(ガラス器)のライティング2
27	物体の質感表現 滑面体(金属器)のライティング1
28	物体の質感表現 滑面体(金属器)のライティング2
29	カメラ・時計・貴金属撮影1
30	カメラ・時計・貴金属撮影2
31	商品を写真で視覚化する方法。媒体広告・SP・PRと写真の関係1
32	商品を写真で視覚化する方法。媒体広告・SP・PRと写真の関係2
33	大型ビューカメラに触れる(歪み煽り)。ペンジュラム1
34	大型ビューカメラに触れる(歪み煽り)。ペンジュラム2
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員1は、写真家。世界各国の国をまわり撮影。担当教員2は、広告制作スタジオ勤務の後、フリーの写真家として独立。広告、エディトリアルなどの分野で仕事する。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	デザインワーク I	長峯八州男	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

「斬新で独創的なデザインは、見る側に快い刺激を与える」といわれる。
そのためには、裾野を広く発想力を磨き、デザイン構成力や表現力を高めさせることを目的とする。

【講義概要】

文字デザイン・写真選択・レイアウト・イラスト表現・コラージュテクニック・色の扱い方などを習得させる。
また企画構成力とアプローチ力を重点的に習熟させ、卒業制作や社会での一線で役立てられるよう自信を付けさせる。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	アイデアとは何か？クリエイターの心構え
3	キャッチコピーの発想と表現
4	雑誌表紙制作：雑誌の分類、種類と判型
5	雑誌表紙制作：プレゼンテーション
6	雑誌表紙制作：アイデア出しに沿ってサムネイルおこしをする
7	雑誌表紙制作：フィニッシュアップ
8	雑誌表紙作品講評
9	新聞広告制作：テーマ「ECO」
10	新聞広告制作：プレゼンテーション1
11	新聞広告制作：プレゼンテーション2
12	新聞広告制作：アイデア出しに沿ってサムネイルおこしをする
13	毎日広告デザイン賞からみる作品の分析と紹介1
14	毎日広告デザイン賞からみる作品の分析と紹介2
15	めざせプレゼン名人！めざせ論文名人！めざせレポート名人！
16	新聞広告作品課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講座・実習形式。担当教員は、元新聞社勤務。長年マスメディアの現場にて活躍している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	デザインワークⅡ	関翔吾	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

就職活動のためのポートフォリオの質を少しでもあげる作品を制作することを第一とする。
就活から目をそらしスタートが遅れてしまう傾向があるので、仕事にする事の楽しさを感じてもらいながらも危機感を持ってもらう。

【講義概要】

デザインの世界観を広げて見せるべく、
単発の作品ではなく、例えば、ロゴをベースに各種ツールに派生させるなどのアートディレクションやブランディングの観点からアピールできる作品作りを1課題につき、何週かに渡って制作する。

回	授業計画及び学習内容
1	オリエンテーション
2	講師仕事事例紹介、ピンタレスト(SNS)発表
3	好きなデザインを考える(ラフ)
4	好きなデザインを考える(2回目)
5	好きなデザインを考える(3回目)
6	ポートフォリオ発表
7	オリジナリティを追求する(ラフ)
8	オリジナリティを追求する(2回目)
9	オリジナリティを追求する(3回目)
10	オリジナリティを追求する(4回目)
11	課外授業(美術館/ギャラリー等)
12	世の中を良くするデザイン(ラフ)
13	世の中を良くするデザイン(2回目)
14	世の中を良くするデザイン(3回目)
15	世の中を良くするデザイン(4回目)
16	世の中を良くするデザイン(5回目)
17	講評評価
18	講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はデザイン事務所を経て、現在フリーのグラフィックデザイナー/アートディレクターとして活躍している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養科目	ビジネススキルⅡ	山本 浩生	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

将来にわたって継続的に活動・活躍できる人材を育成するのが目標・テーマである。

【講義概要】

グラフィックデザイン科全学生の基礎的な知識、教養、マナーなどを徹底して指導する。

報告・連絡・相談などの社会人としての基礎的な技術を習得する時間である。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	各人の自己紹介／講師作品の紹介
3	整理整頓の技術・実践
4	整理整頓の技術・実践
5	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／一二年生の交流-1
6	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1.／一二年生の交流-2
7	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／発表
8	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／実技
9	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／講義
10	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-1
11	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-2
12	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-3
13	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-1
14	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-2
15	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-3
16	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-4
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-1
21	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-2
22	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-3
23	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-4
24	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-5
25	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-6
26	デザイナーとしての視点と作法-1
27	デザイナーとしての視点と作法-2
28	デザイナーとしての視点と作法-3
29	デザイナーとしての視点と作法-4
30	デザイナーとしての視点と作法-5
31	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-1
32	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-2
33	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-3
34	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-4
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講義・実習・演習形式。担当教員は美術家、批評家であり、個展・グループ展・著書等多数。油彩・水彩・ペン・鉛筆・写真・映像など多岐にわたる素材を使用し、表現する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	パッケージデザイン1	田中彩里	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

パッケージデザインの実践を通して学習することによって、デザイナーにとって最低限必要な知識を習得することが目標である。

【講義概要】

実践に近い形で商品パッケージを作成する。
また、パッケージ制作の流れの中でデザインについての役割、必要性、基本的な技術を学ぶ。
講義形式で何回かにわたり【色彩についての講義】【ロゴタイプについての講義】【プレゼンについての講義】等を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	パッケージデザインについての解説 課題提起
3	資料集め アイデア出し 【就職についての説明】
4	イメージラフ作成 【色彩についての講義】
5	ラフ作成1
6	ラフ作成2
7	プレゼン準備 【プレゼンについての講義】 プレゼン
8	商品全体を考えたパッケージデザインの課題を提起 内容整理 アイデア出し
9	コンセプト、ネーミング作成、イメージラフ(手描き)作成
10	ロゴ作成 【ロゴについての講義】
11	ラフ作成1
12	ラフ作成2
13	ラフ作成3
14	ラフ作成4
15	ラフ作成5
16	商品を立体にし外部のカメラマンに撮影してもらう
17	ロゴ作成講評評価・プレゼン
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習・講義形式。担当教員は、大学で日本画を学んだあと、デザイン会社勤務を経て主にパッケージデザインなどのデザイナーとして活動している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	ブランディング I	加藤淳	72時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
現在のブランディングの課題に対応できる、デザイン力とプレゼンテーション力を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
総合学院のメリットを生かして、他学科との共同作業や外部へのプレゼンテーションを積極的に行う。また、講義全般にわたってブランディングデザイン全般の基礎力を養う。			
回	授業計画及び学習内容		
1	前期オリエンテーション		
2	ブランディングの現在1		
3	ブランディングの現在2		
4	【課題1】府中美術館のブランディング 課題説明		
5	【課題1】府中美術館のブランディング1		
6	【課題1】府中美術館のブランディング2		
7	【課題1】府中美術館のブランディング3		
8	【課題1】府中美術館のブランディング4		
9	【課題1】府中美術館のブランディング5		
10	【課題1】府中美術館のブランディング6		
11	府中美術館の現地リサーチ		
12	リサーチ結果の集約とコンセプトの策定		
13	ブランドマーク試案の発表と、方向性の検討		
14	基本デザインのプレゼン1		
15	基本デザインのプレゼン2		
16	課題講評・締切。		
17	前期講評評価		
18	前期講評評価		
19	後期オリエンテーション		
20	基本デザインのプレゼン3		
21	基本デザインのプレゼン4		
22	基本デザインのプレゼン5		
23	展開デザインを含む最終プレゼン		
24	【課題2】飲食店のブランディングを考える 課題説明		
25	ネーミングのプレゼンと候補案の絞り込み1		
26	ネーミングのプレゼンと候補案の絞り込み2		
27	ネーミングのプレゼンと候補案の絞り込み3		
28	ブランドマーク試案の発表と検討1		
29	ブランドマーク試案の発表と検討2		
30	ブランドマーク試案の発表と検討3		
31	基本デザインのプレゼン1		
32	基本デザインのプレゼン2		
33	展開デザインのプレゼン1		
34	展開デザインのプレゼン2		
35	後期講評評価		
36	後期講評評価		
【成績評価方法】			
提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。 提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。 ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実習形式。担当教員は、某有名缶コーヒーや某有名ビールのロゴ製作など、日本を代表するグラフィックデザイナーである。			

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	ポートフォリオ制作2	加藤 淳	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

就職活動に使用する、自分の代表的なデザイン作品をまとめたファイルの制作し、また「企業課題」にも積極的に取り組むことで、実践力を養うことを目的とする。

【講義概要】

講義全般にわたり編集デザインの視点から、コミュニケーション力のある、精緻なポートフォリオの制作を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	ポートフォリオとは1
3	ポートフォリオとは2
4	実例の紹介1
5	実例の紹介2
6	現在、手元にある作品での構成案1
7	現在、手元にある作品での構成案2
8	現在、手元にある作品での構成案3
9	現在、手元にある作品での構成案4
10	現在、手元にある作品での構成案5
11	現在、手元にある作品での構成案6
12	必要な作品の追加、拡充1
13	必要な作品の追加、拡充2
14	必要な作品の追加、拡充3
15	必要な作品の追加、拡充4
16	必要な作品の追加、拡充5
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	現在、手元にある作品での構成案7
21	現在、手元にある作品での構成案8
22	現在、手元にある作品での構成案9
23	現在、手元にある作品での構成案10
24	現在、手元にある作品での構成案11
25	現在、手元にある作品での構成案12
26	必要な作品の追加、拡充5
27	必要な作品の追加、拡充6
28	より効果的な見せ方の研究1
29	より効果的な見せ方の研究2
30	より効果的な見せ方の研究3
31	プレゼンテーションの研究1
32	プレゼンテーションの研究2
33	プレゼンテーションの研究3
34	ポートフォリオをメールで送る方法について
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式。

担当教員は、某有名缶コーヒーや某有名ビールのロゴ製作など、日本を代表するグラフィックデザイナーである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	卒業制作1	岸 乃瑠	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

卒業制作のコンセプト・制作スケジュール等を的確に把握し、これまで学んできたことを活かした卒業作品を制作させることが目標である。

【講義概要】

卒業制作作品のコンセプトを考え、それに沿って制作を進め、フィニッシュワークなので完成度を高めるように講義全般にわたり指導する。

回	授業計画及び学習内容
1	後期オリエンテーション
2	卒業制作作品のコンセプト、アイデアを考える。
3	卒業制作作品のイメージスケッチ
4	卒業制作作品の展示イメージを考える。
5	各作品の展示イメージチェック
6	作品制作-1(個別に制作状況の確認、チェック)
7	作品制作-2
8	作品制作-3
9	作品制作-4、各自進捗状況プレゼン
10	作品制作-5
11	作品制作-6
12	作品制作-7
13	作品制作-8
14	作品制作-9
15	作品制作-10
16	作品制作課題講評
17	後期講評評価
18	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式。担当教員は、美術作家であり、展示・受賞等多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	卒業制作2	加藤 淳	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

卒業制作のコンセプト・制作スケジュール等を的確に把握し、これまで学んできたことを活かした卒業作品を制作させることを目的にします。

【講義概要】

卒業制作作品のコンセプトを考え、それに沿って制作を進め、完成度を高めるように講義全般にわたり指導します。

回	授業計画及び学習内容
1	後期オリエンテーション
2	卒業制作作品のコンセプト、アイデアを考える。
3	卒業制作作品のイメージスケッチ
4	卒業制作作品の展示イメージを考える。
5	各作品の展示イメージチェック
6	作品制作-1(個別に制作状況の確認、チェック)
7	作品制作-2
8	作品制作-3
9	作品制作-4、各自進捗状況プレゼン
10	作品制作-5
11	作品制作-6
12	作品制作-7
13	作品制作-8
14	作品制作-9
15	作品制作-10
16	作品制作課題講評
17	後期講評評価
18	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式。担当教員は、某有名缶コーヒーや某有名ビールのロゴ製作など、日本を代表するグラフィックデザイナーである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	ビジュアル制作	稲葉志保	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デザイン制作でのAdode Photoshopを効率的・効果的に使えるように、基本的なことから応用的なことまでを学ぶ。
紙媒体の場合、WEBの場合など画像の規定は変わるが、そのことを理解することにより、どのようなデザインの制作であろうとデザイナーとして対応できるビジュアル制作を身に付けることを目標とする。

【講義概要】

グラフィック系ソフト(Adode Illustrator・InDesign)においてのPhotoshopの画像の配置の規定を基本に、紙媒体の場合・WEB媒体の場合などデザイン制作を形にするときの必要な画像知識を学ぶ。そこから他の授業でも使用するための画像素材作りにも展開できる技術を学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	色の基本知識(CMYKとRGB)・保存形式の基本知識(psd・eps・jpg・png)・解像度の基本規定
3	ビジュアルイメージを理想的なサイズにする方法
4	サンプル画像を元にデザインラフを作る際の注意点と活用方法
5	物撮り画像の効率の良いキリヌキ
6	物撮り画像の効率の良いキリヌキ 背景に馴染ませる
7	物撮り画像の効率の良いキリヌキモノ同士を違和感なく並べる
8	商品をキリヌキ、色を変換させる方法
9	画像全体をセピアにし、一部のものをカラーにする方法
10	画像と文字を合成する方法
11	画像と文字を合成する方法2
12	7割り増しの人物画像を作り上げる方法
13	自分のデザインを商品化するためのビジュアル制作1
14	自分のデザインを商品化するためのビジュアル制作2
15	自分のデザインを商品化するためのビジュアル制作3
16	自分のデザインを商品化するためのビジュアル制作4 課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はデザイナーとして活動。Photoshopを駆使した作品制作経験が豊富。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 グラフィックデザインコース	2019年度	2年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用科目	Webデザイン	ムラヤマ リュウタ	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

WEBデザインの基礎を学び、同時に企画制作の基礎を学ぶ。
HTML、CSSを用いてサイト構築ができることを目標とする。

【講義概要】

WEBサイト構築にはHTML等のプログラミング知識が必要になると同時に企画、デザイン力も求められる。
またそれらのバランスをうまくコントロールしながらWEBサイト構築を心がけるように指導する。
最初にPSD、AIのWEB的な使用方法を学び、その後HTML、CSSの基礎を学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	WEBサイトの目的などについての考察
3	.PS、AIのWEB的使用方法1
4	.PS、AIのWEB的使用方法2
5	.PS、AIのWEB的使用方法3
6	.PS、AIのWEB的使用方法4
7	バナー、アイコン、ランディングページデザイン1
8	バナー、アイコン、ランディングページデザイン2
9	バナー、アイコン、ランディングページデザイン3
10	バナー、アイコン、ランディングページデザインプレゼンテーション講評
11	HTMLの概念。様々なタグを学習
12	エディタの使用法、ファイルとフォルダ(ディレクトリの概念)
13	HTML、CSS1
14	HTML、CSS2
15	HTML、CSS3
16	WEBコーディング課題講評
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	HTML、CSS復習
21	レイアウトデザイン CSSレイアウト
22	レイアウトデザイン CSSレイアウト
23	レイアウトデザイン CSSレイアウト
24	WEBサイト制作1
25	WEBサイト制作2
26	WEBサイト制作3
27	WEBサイト制作中間講評
28	JQUERYライブラリの利用
29	JQUERYライブラリの利用
30	JQUERYライブラリの利用
31	WEBサイト制作4
32	WEBサイト制作5
33	WEBサイト制作6
34	WEBサイト制作7
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習・形式。担当教員は美大卒業後、主にWeb、映像関係などの仕事に携わっている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	デザイントリアル	高沢亮	108時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
アドバタイジングの入り口として目的意識と技術の向上をめざし新しい可能性を探りだすことを目的とした授業。			
【講義概要】			
一つの企画立案から現地視察、スケッチ、造形制作、ポスター制作を通してデザインの仕組みを理解し物の見方を学習することを目的とする。さらに、三次元造形技術やそのデザインへの応用に関する表現できることを達成目標とする。 街の緑の空間に彫刻を配置し、芸術性豊かで人々が集まる公園作りの企画を提案。			
回	授業計画及び学習内容		
1	前期オリエンテーション		
2	現地取材とスケッチ1		
13	ポスター制作2		
14	ポスター制作3		
15	ポスター制作4		
16	企画と造形物の発表/課題講評・締切。		
17	前期講評評価		
18	前期講評評価		
19	後期オリエンテーション		
20	写真画像を4種類のイラストにする。01		
21	写真画像を4種類のイラストにする。02		
22	写真画像を4種類のイラストにする。03		
23	写真画像を4種類のイラストにする。04		
24	写真画像を4種類のイラストにする。05		
25	水の音をイラストへ1		
26	水の音をイラストへ2		
27	水の音をイラストへ3		
28	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。01		
29	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。02		
30	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。03		
31	コラージュ作品を制作し、その作品からアナログ作品を制作。04		
32	イラスト作品をパソコンでまとめる。01		
33	イラスト作品をパソコンでまとめる。02		
34	イラスト作品をパソコンでまとめる。03		
35	後期講評評価		
36	後期講評評価		
【成績評価方法】			
提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。 提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。 ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は、実習形式。担当教員はイラストレーターであり、アナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。個展、グループ展多数。			

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	Macオペレーション I	生島 則夫	108時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
デザイナーとして必要な基本知識を早め実践しデータ作成を通して、最終的に基礎知識を習得し、のちに应用到展開できるようにするのが目的です。			
【講義概要】			
Adobe Illustrator の基本的な操作、図形の制作などを通してペンツール・文字入力などの基本ツールの使い方を学びます。 またAdobe Photoshopの基本的な操作、写真などのデータの補正・合成などを通しての基本ツールの使い方なども学びます。			
回	授業計画及び学習内容		
1	前期オリエンテーション		
2	Ai文字ツール・ペンツール等のパスの説明等①(以降基礎で明記)		
3	Ai基礎② Psデータ等の写真配置①		
4	パスの練習①印刷とデジタルの物理的長さでデジタルデータの差の話①		
5	Ai基礎③トリムマーク作成と印刷の説明①レイヤーの説明①配置②		
6	Ai基礎④印刷説明②Ai・Psでの色の説明①配置③長さ②		
7	トリムマーク②色について②長さ③見え方についての違い①		
8	パスの合体や数値での移動など パスの練習②レイヤーの説明①		
9	パス③レイヤー②マスクについて①		
10	Psでのパス①色について③		
11	色について④PSレイヤーマスク等①		
12	PSレイヤー②色について⑤Aiパスでロゴ作成①		
13	作成したロゴをプラスしてのリーフレット作成①		
14	作成したロゴをプラスしてのリーフレット作成②		
15	RGBとCMYKの違い		
16	RGBとCMYKの違い		
17	前期講評評価		
18	前期講評評価		
19	後期オリエンテーション		
20	ピクセル等解像度の説明。		
21	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。①		
22	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。②		
23	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。③		
24	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。④		
25	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。⑤		
26	色の考え方(トーンカーブやチャンネルミキサー)の為の説明。⑥		
27	課題作成①		
28	課題作成②		
29	課題作成③		
30	課題作成④		
31	Ps・Ai今までの復習①		
32	Ps・Ai今までの復習②		
33	Ps・Ai今までの復習③		
34	Ps・Ai今までの復習④		
35	後期講評評価		
36	後期講評評価		
【成績評価方法】			
提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は実習形式。担当教員は、Adobe Illustrator・Adobe Photoshopを利用した仕事を展開している。			

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	デッサン	高沢亮	144時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デッサンを描くことを通して制作態度を改め、正しい認識の元に見えることの仕組みを理解し、物の見方を学習することを目的とする。さらに、基本敵な用語の理解と形態の描法が表現できることを達成目標とする。

【講義概要】

美術描画制作全般の基礎的な技術となるデッサンを、実習を通して基礎から理解していく授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	デッサン概要説明 用具チェック 立方体
3	円柱(楕円の理解) 鉛筆デッサン
4	箱(方形の応用) 1
5	箱(方形の応用) 2
6	ブロック(組み合わせのパス)1
7	ブロック(組み合わせのパス)2
8	ブロック(組み合わせのパス)3
9	バケツ(楕円の応用)1
10	バケツ(楕円の応用)2
11	バケツ(楕円の応用)3
12	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)1
13	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)2
14	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)3
15	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)4
16	ポット果実の組み合わせ(布台の奥行き)5
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	傘組み合わせ1
21	傘組み合わせ2
22	傘組み合わせ3
23	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン1
24	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン2
25	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン3
26	石膏像マルスの首 鉛筆デッサン4
27	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作1
28	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作2
29	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作3
30	広告基礎 オーケストラ コンサートフライヤー制作4
31	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作1
32	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作2
33	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作3
34	広告基礎 バレンタイン チョコレートフライヤー制作4
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員はイラストレーターであり、アナログ素材で描いた描画をAdobe Illustrator・Adobe Photoshopなどで再構成利用した作品を制作している。個展、グループ展多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ビジネススキル I	山本 浩生	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デザイナーとしてのみならず人間力・総合力を学び、将来にわたって継続的に活動・活躍できる人材を育成するのが目標・テーマである。

【講義概要】

グラフィックデザイン科全学生の基礎的な知識、教養、マナーなどを徹底して指導する。
報告・連絡・相談などの社会人としての基礎的な技術を習得する時間である。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	各人の自己紹介／講師作品の紹介
3	整理整頓の技術・実践
4	整理整頓の技術・実践
5	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／一二年生の交流-1
6	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／一二年生の交流-2
7	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／発表
8	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／実技
9	美術・デザインの根本的思考力・知識の向上1／講義
10	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-1
11	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-2
12	美術とは？ファインアートとは？デザインとは？美術業界について-3
13	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-1
14	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-2
15	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-3
16	既成概念を崩す1／根本的思考力・知識の向上2-4
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-1
21	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-2
22	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-3
23	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-4
24	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-5
25	多様な視点を獲得する／対話・鑑賞・批評技術の向上-6
26	デザイナーとしての視点と作法-1
27	デザイナーとしての視点と作法-2
28	デザイナーとしての視点と作法-3
29	デザイナーとしての視点と作法-4
30	デザイナーとしての視点と作法-5
31	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-1
32	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-2
33	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-3
34	既成概念を崩す2／根本的思考力・知識の向上3-4
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、講義・実習・演習形式。担当教員は美術家、批評家であり、個展・グループ展・著書等多数。油彩・水彩・ペン・鉛筆・写真・映像など多岐にわたる素材を使用し、表現する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ベーシックデザイン I	関翔吾	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

デザインの世界観を拡張する授業を展開する。それにより、学生の技術・知識だけではなく独創性を身に付けさせる。また、就職活動のためのポートフォリオの質を少しでも向上するような作品を制作できるように指導する。

アートディレクションやブランディングの観点からアピールできる作品作りを、1課題につき何週かに渡って制作する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	講師仕事事例紹介、ピンタレスト(SNS)発表
3	好きなデザインを考える(ラフ)
4	好きなデザインを考える(2回目)
5	好きなデザインを考える(3回目)
6	ポートフォリオ発表
7	オリジナリティを追求する(ラフ)
8	オリジナリティを追求する(2回目)
9	オリジナリティを追求する(3回目)
10	オリジナリティを追求する(4回目)
11	課外授業(美術館/ギャラリー等)
12	世の中を良くするデザイン(ラフ)
13	世の中を良くするデザイン(2回目)
14	世の中を良くするデザイン(3回目)
15	世の中を良くするデザイン(4回目)
16	世の中を良くするデザイン(5回目)
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員はデザイン事務所を経て、現在フリーのグラフィックデザイナー/アートディレクターとして活躍している。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ベーシックデザインⅡ	田中彩里	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

小型の製品のデザイン作成を通じて具体的に習得することにより、プロフェッショナルとしても通用するようなグラフィックデザインの基礎力を身に付けさせることを目標とします。

【講義概要】

イラストレーターやフォトショップの技術やデザインの基本的な考え方を、具体的な作業を通じて指導します。

回	授業計画及び学習内容
1	オリエンテーション
2	グラフィックデザインについて解説
3	ブックデザイン内容把握
4	タイトルのロゴ作成
5	イメージラフ作成1
6	イメージラフ作成2
7	プレゼンテーション
8	好きなアーティストのCDジャケット作成の課題提起 内容整理 アイデア出し
9	イメージラフ(手描き)作成
10	ロゴ作成-1
11	ロゴ作成-2
12	CDラフ作成
13	CDラフ作成
14	チラシラフ作成-1
15	チラシラフ作成-2
16	チラシラフ作成課題講評・締切。プレゼンテーション。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は実習形式。担当教員は、美術大学卒業後主にパッケージデザインなどのデザイナーとして長年にわたり活動している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	マスメディア概論	長峯八州男	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

受け手側を考えた発信能力(情報共有化)を理解し身に付けさせることを目標にする。

【講義概要】

「お客様第一主義」とは何かを考えながらどのような媒体にどのような表現で「広告・PR」するのかを、基礎的技術との関連性を通して理解・履修・習得させるような授業を展開する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	相互紹介
3	広告の定義／広告の歴史
4	広告のプロセス①
5	広告のプロセス②
6	「新聞媒体」新聞広告の掲載位置による分類
7	「雑誌媒体」雑誌広告の特性。雑誌広告の種類
8	「電波媒体」テレビ、ラジオ
9	その他の媒体の特性①
10	その他の媒体の特性②
11	広告の目的分類
12	広告の内容表現
13	広告の内容形態
14	広告会社／広告・表現の規制・法規
15	インターネットの普及
16	課題レポート講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講座・実習形式。担当教員は、元新聞社勤務。長年マスメディアの現場にて活躍している。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	広告論	長峯八州男	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

広告・PR論を通して受け手側を考えた発信能力(情報共有化)を理解し身に付けさせることを目標にする。

【講義概要】

PRと広報の最新動向、海外広報での注意すべきことなどを学習し、PRと広報を理解習得させるような授業を展開する。

回	授業計画及び学習内容
1	オリエンテーション
2	PR広報論
3	グリコ・森永事件にみる相違
4	PRとは「水俣公害訴訟」にみる行政と企業への情報開示
5	PRの歴史:近代的PRの出発
6	広報対象(社外PR)
7	広報対象(社内PR)
8	メディアと広報、マスコミと媒体
9	パブリシティ
10	緊急対応
11	苦情対応
12	CI、CCとは。IRとは。
13	著作権の基礎知識
14	海外広報
15	PR代理店活用1
16	PR代理店活用2
17	課題レポート講評評価
18	課題レポート講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、講座形式。担当教員は、元大手新聞社勤務。長年マスメディアの現場にて活躍。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	色彩表現	出口 寛子	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

理論的な色彩構成を学ぶことにより、最終的に「色彩検定 3級」程度の知識・技術を身につけることを目標にする。

【講義概要】

講義全般にわたって、色の三属性の基本的な技術・知識を身に付けさせる。
また、作品への愛着を持ち、丁寧な創作ができるよう指導する。
最終的に就職活動時に参考資料として持参できるような作品となるよう指導する。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	フィールドワーク:身近にある色を探してみよう:最低12色相(P25 図4)探す
3	集めた色で色相環を作ってみよう(明度・彩度のバラツキを体感する)
4	演習:絵具を使って色の三属性を理解しよう (p28図9を作る)
5	絵具(白・黒・赤)、絵筆、スポイト(絵具を同量に図れるものなら何でもよい)
6	PCCSのTONE表を作ってみよう(必ずトーンごとに作成すること)
7	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-1
8	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-2
9	モチーフと任意のアルファベットを使った構成-3
10	グラデーション構成-1
11	グラデーション構成-2
12	グラデーション構成-3
13	模写1
14	模写2
15	模写3
16	模写課題講評・締切。色彩検定3級対策
17	前期講評評価
18	前期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。
提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。
ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員は大手鉄道会社の航空営業部に12年勤務。代理店セールスの傍ら社員添乗、ツアー企画などの経験のなかで、フライヤー制作などの経験がある。



開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	平面構成	渡邊 伸綱	108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

生徒各自の自主性・発想力・創造力・アイデアを大切に考えます。またそれを具体的に表現できるグラフィックデザイナー、クリエイターを育てることを目的とします。また、各学生作品が、新鮮な新しい時代を感じ取れるものになことも目的とします。

【講義概要】

学生各自が自ら課題を設定し制作することを基本とする。

教員は各学生に向き合い寄り添いつつ

柔軟かつ臨機応変に、課題制作の指導を行う。

後期中頃には、動画を用いた平面構成デザイン制作の指導を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	自由課題制作-1
3	自由課題制作-2
4	自由課題制作-3
5	自由課題制作-4
6	自由課題制作-5
7	自由課題制作-6
8	自由課題制作-7
9	自由課題制作-8
10	自由課題制作-9
11	自由課題制作-10
12	自由課題制作-11
13	自由課題制作-12
14	自由課題制作-13
15	自由課題制作-14
16	自由課題制作講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	乗り物のラッピングデザイン制作-1
21	乗り物のラッピングデザイン制作-2
22	乗り物のラッピングデザイン制作-3
23	乗り物のラッピングデザイン制作-4
24	乗り物のラッピングデザイン制作-5
25	乗り物のラッピングデザイン制作-6
26	動画による平面構成デザイン制作-1
27	動画による平面構成デザイン制作-2
28	動画による平面構成デザイン制作-3
29	動画による平面構成デザイン制作-4
30	動画による平面構成デザイン制作-5
31	動画による平面構成デザイン制作-6
32	動画による平面構成デザイン制作-7
33	動画による平面構成デザイン制作-8
34	動画による平面構成デザイン制作-9
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は、実習形式。担当教員はイラストレーター、画家。様々な画風を駆使し媒体を描き分ける。展示等多数。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	立体構成	山本 浩生	54時間

【授業の到達目標及びテーマ】

グラフィックデザイン科、Webデザイン科、CG科の三科合同授業であり、三科の学生がコラボレーションすることにより幅広い視野や知識・技術を獲得することを目標・テーマとする。

【講義概要】

講義全般にわたりグループワークの基礎、または発想力、主体性、協調性、積極性などを身に付ける。グループ内で即興で課題を出し合い、また課題を制作し学生同士の作品を批評しあうことで、批評的視点や幅広く柔軟な態度を身に付けさせる。

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	「映画をつくろう」グループ分け、役員決定、企画構想会議等
3	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-1
4	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-2
5	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-3
6	企画構想会議、企画構想の具体化、エスキースなどの制作-4
7	企画構想の具体化、エスキースなどの制作
8	「映画をつくろう」発表、プレゼンテーション
9	8週目の講評会。評価付け。
10	「課題を出し合おう」
11	10週目の講評会。評価付け。
12	「課題を出し合おう」
13	12週目の講評会。評価付け。
14	「課題を出し合おう」
15	14週目の講評会。評価付け。
16	課題講評・締切。
17	前期講評評価
18	前期講評評価
19	後期オリエンテーション
20	描画の基礎を知ろう-1
21	描画の基礎を知ろう-2
22	描画の基礎を知ろう-3
23	「アルバムを作ろう」-1
24	「アルバムを作ろう」-2
25	「アルバムを作ろう」-3
26	「アルバムの感想を語ろう」-1
27	「美術館に行こう」-1
28	「美術館に行こう」-2
29	「コラージュしよう」-1
30	「コラージュしよう」-2
31	「コラージュの感想を語ろう」
32	「批評をしよう」-1
33	「批評をしよう」-2
34	「表現を語ろう」
35	後期講評評価
36	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講義・実習・演習形式。担当教員は美術家、批評家であり、個展・グループ展・著書等多数。油彩・水彩・ペン・鉛筆・写真・映像など多岐にわたる素材を使用し、表現する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	ポートフォリオ制作1	加藤 淳	36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

自分の代表的なデザイン作品をまとめたファイルの制作する。また実践力を養うことを目的とする。

【講義概要】

講二 年次「ポートフォリオ」の授業に繋がる基礎を学ぶ。

講義全般にわたり編集デザインの視点から、コミュニケーション力のある、精緻なポートフォリオの制作を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	後期オリエンテーション
2	ポートフォリオの基本1
3	作品づくりの基本2
4	実例の紹介1
5	実例の紹介2
6	現在、手元にある作品での構成案1
7	現在、手元にある作品での構成案2
8	現在、手元にある作品での構成案3
9	現在、手元にある作品での構成案4
10	現在、手元にある作品での構成案5
11	現在、手元にある作品での構成案6
12	必要な作品の追加、拡充1
13	必要な作品の追加、拡充2
14	必要な作品の追加、拡充3
15	必要な作品の追加、拡充4
16	必要な作品の追加、拡充5
17	後期講評評価
18	後期講評評価

【成績評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。

提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。

ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式。担当教員1は、エディトリアルデザイナーである。

担当教員2は、某有名缶コーヒーや某有名ビールのロゴ製作など、日本を代表するグラフィックデザイナーである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	グラフィックデザイン科 大学コース	2019年度	1年・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎科目	エディトリアルデザインI	中村 浩美	54時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
他の授業で身につけたグラフィック系ソフトを駆使して、組版ソフトに取り込む作業をととしてDTPによる印刷物制作の理解を深め、最終的にエディトリアルデザイナーとしての基礎を習得することを目標とする。			
【講義概要】			
組版ソフトの基礎知識、さらにデータ出力(データ入稿)の基礎知識を学び、一連のエディトリアルワークの流れを理解する。			
回	授業計画及び学習内容		
1	後期オリエンテーション		
2	組版ソフトの基礎知識1		
3	組版ソフトの基礎知識2		
4	組版ソフトの基礎知識3		
5	組版ソフトの基礎知識4		
6	組版ソフトの基礎知識5		
7	組版ソフトの基礎知識6		
8	組版ソフトの基礎知識7		
9	データ出力(データ入稿)の基礎知識1		
10	データ出力(データ入稿)の基礎知識2		
11	データ出力(データ入稿)の基礎知識3		
12	データ出力(データ入稿)の基礎知識4		
13	基礎課題制作1		
14	基礎課題制作2		
15	基礎課題制作3		
16	基礎課題制作4		
17	後期講評評価		
18	後期講評評価		
【成績評価方法】			
提出課題、出席状況、授業態度を総合的に判定して成績を評価する。 提出課題と出席状況および授業態度の評価比率は6:4とする。 ただし出席率が8割以上の者を評価対象とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は実習形式。担当教員はエディトリアルデザイナーとして活躍。			

